

政務活動報告書

会 派 名 無 所 属 坂 本 崇

年 月 日	令和 2 年 9 月 26 日			
場 所 (市外の場合は 行程を記入)	弘前市立観光館			
相手方 (会議名等)	坂本たかしと「津軽弘前」を共に考える会			
参加議員名	坂本崇			
活動の概要	別紙のとおり。			
	※会議・研修資料等があれば、添付してください。			
活動に要した経費	主な品目	政務活動費相当額	領収書番号	支払証明書番号
	送料	6,426 円	2	
	会場使用料	21,480 円	3	
		円		
		円		
		円		
	合計額	27,906 円		
備 考	(写真貼付等) 別紙のとおり。			

政務活動報告

弘前市議会 無所属 坂本 崇

日時 令和2年9月26日(土) 15時～17時
場所 弘前市立観光館1階多目的ホール
活動内容 1) 議会報告
2) まちづくり勉強会
参加人数 60名

令和2年9月26日(土)、弘前市立観光館1階多目的ホールにおいて、無所属議員・坂本崇の議会報告会及びまちづくり勉強会を開催した。

1) 議会報告

令和元年第1回定例会～令和2年第3回定例会までの6回の定例会において、無所属議員・坂本崇が質問した一般質問の内容を中心に報告を行った。

【主な報告内容】

- ・弘前版 DMO について。
- ・ドライバーの横断歩道一時停止意識の啓発について。
- ・弘前藩忍者「早道之者」ゆかりの地について。
- ・弘前公園の紅葉見物客の入込状況について。
- ・令和2年開館施設について。
- ・コロナ禍の観光振興について。
- ・コロナウイルス感染対策「商店街等の歩道活用」について。
- ・弘南鉄道の整備技術の活用について。

2) まちづくり勉強会

青森銀行のシンクタンクである、あおもり創生パートナーズ(株)の地域デザイン部長の松田英嗣氏をゲスト講師にお招きし、「観光と経済」をテーマに弘前市及び周辺市町村の観光による経済波及効果の現状と課題について勉強会を開催した。

(松田氏の講演より)

青森県の各家庭が支出する消費額は家族3人で1ヵ月平均 251,459 円、1人当たり 83,542 円となる。昨今問題となっている人口減少は需要減退を意味し、人口1人減は、年間で 100 万円の需要損失を招く。観光客が青森県内で消費する観光消費額は1人あたり平均 30,000 円であることから、人口1人減を観光で補うには、観光客を 33 人誘客しなければならない計算となる。

青森県内 40 市町村を観光特化係数でランキングすると、弘前市は特化係数が 1.36

で、県内第9位である。トップ10には、他に深浦町、(第2位)大鰐町(第3位)、鱒ヶ沢町(第5位)、五所川原市(第6位)が入っており、津軽広域14市町村の中から5市町がランクイン。このデータから、津軽地域は観光で稼ぐ割合が高い地域と言える。今後各地で人口減少が進む状況の中で、単体ではなく、観光に比較的優位性を持つ近隣の市町村との連携が大切であり、今年4月に津軽広域14市町村で設立されたDMO組織クラムピオニー津軽の今後の活動が重要となる。

2019年の弘前さくらまつりと、青森ねぶたまつりの入り込み客数をもとに、宿泊の有無や消費額などを県の統計を用いて推計すると、今年の「弘前さくらまつり」と「青森ねぶた祭」が新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となったことによる経済的損失は総額575億2千万円に上るといふ推計結果となり、飲食業や宿泊業などのサービス業が特に大きなダメージを受けたことが、数字からも明らかになった。

国からの10万円の特別定額給付金について、県内での飲食や宿泊に意識して使うことで、県民のみんなが地域の事業者を支えていくことにつながる。

ご質問

- ・ DMOの先進国、日本における先進地を知りたい。

松田氏回答▶DMOは各国にある。海外では観光振興は行政ではなく、DMO組織が実施主体となっている。国内のDMOの先進事例と呼べる地域は各地とも比較的設立間もない組織が多くまだよくわからないのが現状。

坂本回答▶海外のDMOは、観光税を運営費に充てている事例が多い。国内のDMOの組織形態は、単体地域で構成する地域DMO、近隣市町村で構成する地域連携DMO、複数の県をまたいだサイズで構成する広域連携DMO等があり、それぞれの地域の事情によって異なることから一概に比較できない面もある。

- ・ 費用対効果の面で、ひろさき煉瓦倉庫美術館の開館は効果があるのか。

松田氏回答▶煉瓦倉庫美術館は中心市街地に賑わいを創出する中核施設としての役割や、美術、文化教育施設的な役割もあるので、かかった費用面以外の地域に波及する様々な効果が考えられる。当然地域に多くの効果をもたらすような運営を目指して行かなければならない。

ご意見

- ・ さくらまつりの集客力を考えれば、桜ミクとコラボする必用があったのか。むしろ、集客力の弱いシーズンのイベント等とコラボした方が効果があるのではないか。

所感

コロナ禍の中、今後に不安を感じている観光関連業の関係者の参加が多く、青森市、黒石市、平川市、大鰐町等からの参加もあり、広域連携で取り組む意識や期待があることを感じた。

今後も自らの議会活動について市民に対する説明責任を果たすとともに、地域の課題、まちづくり等について、共に考える機会の創出に努めて行きたい。

